

ウムチョ ムィーザ通信

No. 57

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

理事長あいさつ

ルワンダの教育を考える会理事長
永遠瑠マリールイズ



日頃より、ルワンダの教育を考える会を支えてくださっている皆様に感謝申し上げます。3月末にルワンダに来て7か月が過ぎました。20周年記念事業として今まで支えてくださった皆様に感謝の気持ちを表すイベントを企画する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら再び学園存続のSOSをお願いすることになってしまいました。コロナ緊急募金を募ったところ、多くの方々の支援をいただき感謝申し上げます。



おかげ様で、手洗い・検温・ソーシャルディスタンスの取組みを条件に11月2日ウムチョムィーザ学園を再開することが出来ました。高学年のみの再開ですが当日、朝6時に学園に行ってみると5時45分頃には最初の子どもがもうすでに来ていました。待ちに待った学校再開をととても喜んでる姿に感動しました。

学園の体制としてフランソワーズ校長が退任し、新たに教頭職を務めていたムタバジ先生が校長と教頭を兼務することになりました。元校長のチャールズが引き続き学園の運営母体である「ADESOC」の

理事長を務めます。

ムタバジ新校長に以下の点を聞きました。

Q1 学校再開を受けての感想は？

今まで子どものいない学校に来るのがとても寂しい事でした。再会できたことをとても嬉しく、生き返ったようです。

Q2 今後どのように子ども達を新型コロナウイルス感染症から守りますか？

一人ひとりの命を守っていくために、全職員で力を合わせて頑張っていくことを約束します。

今回日本の「AMDA」の支援により、看護師を保健の先生として採用することが出来ました。(2010年の学園卒業生です)



ムタバジ校長



ナタリー先生



「ルワンダの教育を考える会」からもエールを送ります。ぜひ、軌道に乗せて、幼稚園生を含め全員が笑顔で登校できる日を待ち望んでいます。

「ルワンダの教育を考える会」を設立した20年前の気持ちをあらためて感じさせてくれている長期滞在です。1994年の内戦により夢と希望を無くしていた子ども達に教室で学ぶことを通して希望や夢を取り戻してほしいという願いのもとで活動を続けてきました。今回も新型コロナウイルス感染症が子ども達の夢を奪わないように活動を続けます。

ミヨベ地区では、新型コロナウイルス感染症の影響により深刻な状況が続いています。

一人では何もできませんが、みんなで力を合わせて一步一步前進していきましょう。命ある限り子ども達の笑顔と未来のために頑張りますので、これからもどうぞお力をお貸しください。

〔収入〕		〔支出〕		円換算	
項目	金額	項目	金額	項目	金額
学費	4,303	職員給料	574,358	広報費	0
入学登録料	1,076	職員ボーナス	0	住民税	6,751
学校保険掛金	0	年金掛金	64,063	交際費	10,221
給食費収入	0	健康保険料	84,091	銀行手数料	1,402
ピアノレンタル収入	0	国税	54,053	制服布地	0
制服・学用品販売	0	給食経費	10,221	銀行借入返済	196,502
制服作成室賃貸	0	光熱水費	10,177	職員へ前貸し	0
多目的室賃貸収入	0	通信費	2,690	出産休暇保障	4,806
アンテナ収入	258,201	消耗印刷費	0	借入手数料費用	48,477
水販売収入	0	旅費交通費	14,739	退職金	54,222
その他の収入	0	会議・研修費	43,647		
考える会からの支援	860,671	施設維持費	22,638		
個人寄付	25,820	弁護士料	91,016		
補助金	0	生徒医療保険	0		
繰越金	249,135	備品購入	0		
個人からの返済	0	建設修理費	0		
銀行借入金	66,917	小計	971,693	小計	322,381
合計	1,466,123			合計	1,294,074

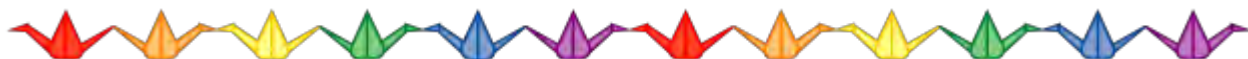
残金 172,049

2020年1月から、1学期が始まりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により3月末から休校になりました。

ルワンダでは国の方針により、手洗い場の確保・検温の徹底・教室内のソーシャルディスタンスの準備が来ている大学の3・4年生が10月26日から、11月2日から高校・中学校・小学校高学年が再開することになりました。11月23日から小学校4年生が加わります。

ウムチョムイーザ学園では、日本からの支援により手洗い場の設置及び非接触型の体温計などの購入により11月2日より5・6年生を受け入れることが出来ました。新しい生活様式を徹底することにより鎮静化することを願っています。





NPO法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

ルワンダ支援の会計報告

* 2020 / 8 / 31 現在時価換算による

期間：2020年5月～8月

単位：円

ADESOC ウムチョ ムーザ学園	ミヨベ プロジェクト	ルワンダ 事務所	計
808,715	193,812	652,102	1,654,629

※ 日本の円をルワンダへ送金すると、日々金額が変動するので、報告額を単純に比較できないので、おおよそのお金の動きとしてご理解願います。今回は 100 ルワンダフラン≒10.76 円で表記します。

ルワンダ事務所より 永遠瑠マリールイズ

[2020年5月～8月 プロジェクト支援報告]

1 ADESOCへの支援

ウムチョムーザ学園の運営母体であるADESOCに、要請に応じて、当会のルワンダ事務所から出来る範囲の支援を行っています。

3月末からコロナの影響により、ルワンダの学校全体が休校に入りました。

2 ミヨベプロジェクト

当会のルワンダ事務所をととして歴史的に取り残された地域と言われる最貧困地区ミヨベの入学前の子ども達に給食を続けています。

また、栄養失調をなくすために種と肥料を購入し保護者への野菜作りの指導等自立支援を続けています。妊産婦支援として母乳の足りないお母さんのためにミルクの支援も行っています。



3 当会ルワンダ事務所

ルワンダ現地事務所では、現地のニーズやそれに応えていくための様々な情報を日本と共有して、活動しています。



今回、7年前から行っているピースコンサートを8月15日キガリのジェノサイドメモリアルを会場にオンラインで行うことが出来ました。第1部は、広島で6歳の時に被爆した「黒田れおん」さんの体験とルワンダで6歳の時に1994年虐殺の中生き残った「モリス」さんの体験を聞きました。第2部は、ウムチョムーザ学園プロシー先生と子ども達による折り紙のパフォーマンス、続いて学園卒業生のアートパフォーマンスと民族ダンス、最後にマニマーティンとKESHOバンドのステージで盛り上がりました。

今回は、「ルワンダと日本の歴史から学びましょう」のテーマで開催することができました。新型コロナウイルス感染症の厳しい状況の中、森俊英さんや斎藤照子さんの平和に対する熱い思いが今年のピースコンサートを実現させてくれました。心から感謝いたします。



最後に、ルワンダの子ども達の教育に力を注いでくださっている皆様に感謝しています。皆様の協力によって持続可能な平和と発展は毎日感じています。これからもよろしくお願いします。

卒業生チエリさん

永遠瑠マリルイズ

私事です、ルワンダに長期滞在していることで10月に55歳の誕生日を母と過ごすことが出来ました。さらに誕生日に20歳のウムチョムイーザ学園卒業生チエリさんが「お誕生日おめでとうございます！僕はコロナに感謝です」と1枚の絵をプレゼントしてくれました。いきなりこのようなことを言われてビックリしない人はいませんよね！なぜこのような言葉なのでしょう？日頃日本にいる私に会えたことがうれしかったようです。

「絵の黒い部分は自分が暗い生活を送っていた時を意味します。」「真ん中に書いた花は、僕の心にきれいな花が咲いたことを意味します。学園で学べたことへの感謝の気持ちを表しました。」「周りの小さな花は、私たちウムチョムイーザ学園で学んだ子ども達です。」「そして、チョウチョは私たちとつながっている人達を意味しています。」「ルワンダに滞在しているからこそ彼らに会うことが出来ました。

この絵をいただいたときに改めてルワンダの教育を考える会の皆様をはじめこの活動を応援してくださっているすべての皆様が支えてくださっているからこそ、このような心豊かな若者が育ったことを想い感謝の気持ちがいっぱいになりました。

過去をさかのぼれば、2011年青年海外協力隊としてウムチョムイーザ学園に派遣された佐々木信恵さんが滞在している時に、理事の倉持睦子さんの協力で作った「アートフェスティバル」に参加した生徒です。当時、絵の具や紙の入手困難な時に、心を絵に表す楽しさを教えていただいたことが、今、花開いています。大変な人生を送っていた時にウムチョムイーザ学園に通い、日本の皆さんに支えられて今の自分があることを話してくれました。



東日本大震災から10年

2011年3月12日早朝、町の広報車から「東京電力福島原子力発電所が危険な状態にあるから、すぐに出て来ただけ遠くに避難してください」と聞き、これは大変と思いながらも、その時は2～3日で帰れるだろうと車に乗りました。それが苦労して建てた我が家との最後になるとは誰が予想したのでしょうか。避難場所を変わる毎に「帰宅は無理であろう。可能であってもそれは数年先になる」と聞いて、どん底に落とされた暗澹たる思いで過ごしたことが昨日のように思い出されます。

会員 菅野千代子





そんな時、友人からアフリカ女性が浪江町の住民を支援していると聞き、仮設住宅の集会所に行きました。そこで一人の女性を囲み、大勢の人達がルワンダコーヒーを飲みながら談笑していました。それがルイズさんとの最初の出会いです。ルイズさんのとびっきりの笑顔とユーモアのある優しい語り口にすっかり魅了され、後にジェノサイドの危険の中を家族と共に福島にたどり着いた経緯と平和の大事さ、教育の重要性を訴え全国で講演活動を行っていることを知り、さらに感動し自分も何かお手伝いをしたいと今に至っています。



自分は原発事故の被災者です。原発の「絶対安全」を信じ浪江町に30年以上暮らしてきました。まさか、ふるさとが放射能に汚染されるとは思ってもみませんでした。二度と世界中で同じことが起きないことを祈ります。私は浪江町で得た30年以上の糸をさらに太く紡ぎながら、新しい地で自立し出会いを大切に日々を大事に暮らしていきたいと思っています。仮設住宅が閉鎖され、皆さんバラバラになりましたが、カフェ同窓生としてこれからも交流が続くことを願っています。

去年(2019年)ルイズさんを追いかけた7年間の記録写真が第25回酒田市土門拳文化賞奨励賞をいただき、写真をはじめて以来一番の大きな賞で感激で胸がいっぱいになりました。これもルイズさんや多くの皆様との出会いとアドバイスのおかげと感謝してます。

2020.11.1

震災からのご縁

NPO法人 コーヒータイム
理事長 橋本 由利子

NPO法人コーヒータイムは浪江町に在った障害者のための事業所です。コーヒータイムの名の通り、障害者と一緒に喫茶店を運営していました。2011年3月11日の東日本大震災とそれに伴う原発事故で二本松市に避難して、事業を再開しました。私は旧平石小学校跡の仮設に入居して、駅前にあるコーヒータイムまで毎日通っていました。その仮設



でルイズさんと「ルワンダの教育を考える会」の皆様と出会いました。ルイズさんの暖かな、包み込むような何とも言いようのないほわほわ感がたまらなく魅力的でした。また考える会の皆様の実直な人柄にも惹かれました。おかげさまで平石の仮設時代は国際色豊かなゲストたちと一緒に歌って、踊って、食事をして、「避難生活も良いもんだなあ」などと思っていました。

そしてついに好奇心が旺盛な私はルイズさんの待つルワンダまで行ってしまいました。ルワンダはきれいな国でしたが虐殺記念館には足を踏み入れることができませんでした。

復興住宅が整備されて、仮設住宅が取り壊されてもルイズさん達と教育を考える会とのお付き合いは続き、今度は安達地区に在る石倉団地でのお茶会が始まりました。ルイズさんの強い意志で「2020年の3・11の集い」を決行しようとしたのですが、新型コロナの流行で泣く泣く取りやめたことがとても残念でした。来年は震災から10年、是非また集いを実行しましょう。そして平和の大切さを実感していきましょう。これからもよろしくお願いいたします。

コロナ緊急募金中間報告

事務局

日頃より、NPO法人「ルワンダの教育を考える会」をご支援いただいている会員・支援者の皆さま、この度は、あたたかいお気持ちと一緒に、コロナ緊急募金のご寄付を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。

当会は、NPO法人設立から今日まで、多くの方たちとの素敵な出会いとご寄付に支えられて歩んでまいりました。現在、当会はコロナ渦の中、大変厳しい運営困難な状況に加え、支援を続けてきた現地の学校の存続、そしてなにより、ルワンダ国内でのコロナウイルス感染拡大の影響によって、学校が3月より約半年の間再開することができず、ウムチョムイーザ学園とミヨベの子ども達が学校に通って学ぶことが困難な状況が続いております。そこで、全国の支援者の皆様へ今年6月より、この困難を助けていただくことができないかと、『コロナ緊急募金』を呼びかけて支援を開始いたしました。

約3ヶ月で、目標金額の100万円以上のご寄付が集まりましたこと、また、ご寄付とともに送っていただきました励ましのお声、心より感謝と御礼を申し上げます。

10月末、ルワンダ側の政府の通達により、11月2日から順次学校の再開が伝えられ、感染拡大予防対策として、環境を見直すことを条件として、ウムチョムイーザ学園も、2日より小学校の高学年にあたる5年生（28名）、6年生（32名）が学校にもどって来ました。11月23日には4年生（22名）が戻ってきます。しっかりとした水洗い場の設置、各教室に子ども1人1人の十分な間隔を保つための独りがけの机・イスの用意、体温計や子ども1人に十分なマスクの用意（最低でも2枚程度）、また、学校給食の提供の徹底など、様々な条件を見直さなければ再開の許可が下りないということで、これまでに集まった寄付金で、早急に取り掛かれるものから支出することを、10月24日（土）に緊急で招集しました臨時の理事会で決定しました。

当初の目標額であった100万円を支出することで一致しましたが、手洗い場の水回りの工事だけでも日本円にして約70万円ほどがかかりました。1日でも早く、全員の子ども達を学校に迎えるための準備を、できることをから始めています。引き続き、コロナ緊急募金を募っております。皆様のお力をお貸し頂けると幸いです。

海をへだてて、はるかかなたのルワンダですが、皆様の子ども達を思うお気持ちを一つにして届けることによって、こども達の「夢」をかなえることが出来ます。

子ども達に代わって、心から感謝と御礼を申し上げます。これからも子ども達の健やかな成長を祈って下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

11月10日現在のコロナ緊急募金・・・合計 1,498,630円

結・ゆいフェスタ2020 ブース出店

開催日：2020年9月12日（土）



コロナの影響でイベント開催が3月から規制され、ルワンダコーヒー・紅茶の販売ができない状況が続いておりましたが、約半年ぶりに今年度初めてのイベントに出店させていただきました。福島市国際交流協会が主催の『結・ゆいフェスタ 2020』です。30 を超える団体や各店が集結して、各国の料理やアルコール、雑貨のブースを出店し、福島市にしながら世界の異文化が体験でき、交流を目的として毎年秋に開催されているイベントです。今年で17回目の開催で、当会も初回から長くかわらせていただいています。当会のブースではルワンダコーヒー・紅茶、スペシャル水出しコーヒーを提供させていただきました。



した。

このイベントでルワンダのコーヒー・紅茶と出会われた方々も多く、チラシをみてまたお買い求めに来てくださった方や、例年ブース内で行っているルワンダ語クイズで覚えたあいさつのフレーズを使いスタンプラリーを集めているお子さんなど、多くの方々が足を運んでく

ださいました。コロナ対策をしっかりとした中での初めてのイベント参加となりましたが、福島市内在住の他ブースの顔なじみの外国の方々とも再会したり、交流ができたりし、多くの当会の支援者の方々、子どもから大人まで楽しめるイベントとなりました！！

[事務局 ルーシー]

会計報告	
コーヒー 紅茶売上	87,400
募金箱	3,342
雑費支出 (コロナ対 策含む)	25,811
出展料	8,000

コロナ禍で、ルワンダと日本をつなぐ

新たなコミュニケーションツール

6月14日に総会をオンラインで開催。その後、事務局会議で今後の活動について当会では何が出来るのか、今何をしないといけないのかということを考えました。ロックダウンになった日にギリギリでルワンダに入国したマリールイズから聞こえてくるルワンダの現場を日本で伝えていく機会を作ろう、ということでZoomでのオンライン報告会の開催を試みました。

7月から大小それぞれのオンライン報告会を開催することができました。これまでに講演会でお会いしたことがある方からご依頼をいただき、お会いしたことのない方とも画面越しでお話を聞いていただくことができました。



コロナの影響が身近ではどんな変化を起こしているのか。実際の声を聞く貴重な時間を持つことになりました。ずっと支援を続けているウムチョムイーザでは、“学びを止めない”ことを先生方と保護者の協力により続けていくことができました。日本でも使われているコミュニケーションアプリを使い、携帯で授業を配信しながら生徒達・保護者とのコミュニケーションを繋いで来たのです。

ミヨベの行政やECDセンターのマネージャーであるマルタと連絡を取り合ってミヨベの現状を把握しつつ食糧支援を続けました。このようなリアルタイムの状況を聞くことができる報告会ができたことでコロナ緊急募金の呼びかけの場も頂くことができました。ここに心より感謝申し上げます。オンラインとこのような通信でのご報告を使いながら皆さまと現地の状況を共有していけるよう努力して参る所存です。

[理事 望月]

コロナ緊急募金のお願い



理事長の報告にもありますが、皆様の募金のおかげで新しい手洗い場が出来、11月に学校を再開することが出来ました。しかし、子ども一人ひとりの使う机やイス等、まだまだ備品が足りていません。また、収入をなくした親は、授業料や給食費が払えずに困っています。

最貧地区ミヨベの給食も継続していく必要があります。
皆様のご協力を再度お願いいたします。

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会

会費や寄付も同じ口座です。何のお金か一言書いていただくと助かります。

ルワンダ写真展

2021.1.4～1.10

「まちなか交流施設ふくふる」

理事長が12月中旬にルワンダからようやく帰国できる見通しが出来ました。今年3月末から長期にわたる滞在期間でのルワンダの様子を報告します。

報告会：1月9日(土) 福島市本町「ふくふる」3F会議室 PM1:30～4:00



マリー・ルイズの生き方をとらえた 「二つの祖国」管野千代子写真展

2021年5月12日(水)～16日(日) 福島テルサ

20周年記念誌発行にむけて

当初、今年12月発行予定でしたが、会の予算及びコロナ禍の影響により編集会議も持てない状況でしたが、2021年度中には発行したいと思います。お力をお貸しください。

お知らせ

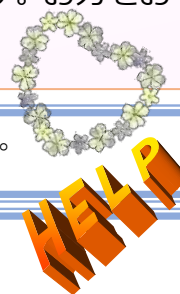
マリー・ルイズ理事長とのオンライン講演会を募集しています。
今のルワンダを知ってください。

会費-年1口5000円

ゆうちょ寄付-月1口500円

ルワンダコーヒー・紅茶

⇒メールにて問合せ下さい



—編集後記—

新型コロナウイルス感染症が世界中に広がったまま新年を迎えようとしています。距離は離れているけれど心はつながっていると確信し、小さな声に耳を傾けたいと思います。



T.S



NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠マリー・ルイズ

〒960-8036

福島県福島市新町8-21

TEL:024-563-6334 FAX:024-563-6335

ホームページ：<http://www.rwanda-npo.org>

メール：info@rwanda-npo.org